

第37期救助科を実施しました

- [期間] 令和5年9月7日（木）から10月6日（金）まで
21日間（168時間） 宿泊
- [会場] 埼玉県消防学校
- [到達目標] 救助に係る知識、技術を修得し、自らの安全を確保できる
技能を培う。また、救助活動を遂行し得る旺盛な士気及び
強健な身体を形成する。
- [教育対象] 救助業務に従事させようとする者で、初任教育修了者かつ
採用後3年以上の消防経験を有する35歳以下の者
- [修了者] 26消防本部(局) 60名



慰霊碑への安全祈願



救助員点検



確保訓練



資機材取扱訓練（かぎ付きはしご）



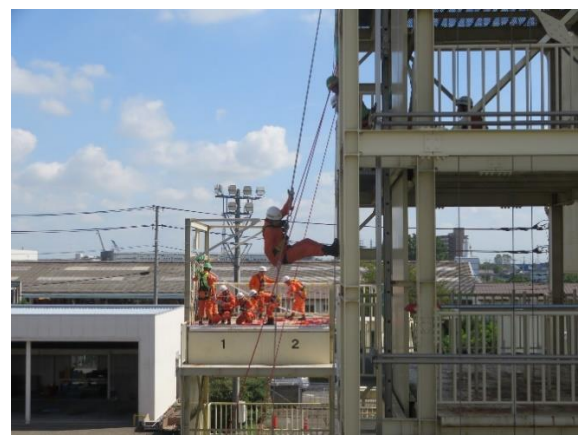
体力強化



多数傷病者対応訓練



登はん訓練



降下訓練



救助訓練（はしご水平救助2）



救助訓練（立て坑・梯子クレーン2）



航空隊連携訓練



救助訓練（斜めブリッジ救出）



火災想定訓練



交通救助訓練



震災救助訓練



想定訓練



事例研究



宙吊り救助訓練



山岳救助訓練

修了しての感想

学校教官、支援教官、各講師の皆様、21日間という短い期間ではありましたが、大変お世話になりました。事故なく、怪我なく、悔いなく学生60名が走り続けることができたのは皆様の支えがあったからだと思います。感謝申し上げます。

そして、59名の私を支えてくれた仲間（宝）、文句一つも言わずについてきてくれて、本当にありがとうございました。

第37期救助科では、救助隊員として土台となる基礎的な知識、技術の更なる構築。精神面の強化。指揮能力の向上。チーム（仲間）の大切さを再確認しました。そして、救助科に入校した者にしか味わうことのできない雰囲気の中での訓練、自分の限界や自分の弱さを知ることができました。

近年、個々の対応力を超える大規模な災害が頻発しています。その変化に対応することのできる救助隊員（最後の砦）に私は絶対になりたいです。



後輩へのメッセージ

21日間という期間は、あっという間に過ぎてしまいます。1日1日を大切に、1分1秒も無駄にすることなく全力全開で研修、訓練に取り組んでください。

救助科学生として、埼玉県消防学校の訓練場で訓練ができるのは学生期間中だけです。失敗は成功のもと、恐れることはありません。大いに失敗し訓練に臨み、一流の救助隊員へと成長してください。時には、自分自身または仲間が辛く挫けそうになる日もあると思います。そんな時、精一杯の声を出し、励まし合い、仲間との信頼関係を築いてください。残暑が残る時期での研修、訓練となります。入校される皆様におかれましては事前準備をしっかりし、埼玉県消防学校の門をくぐっていただければと思います。

修了しての感想

第37期救助科誰一人かけることなく全員で修了できたこと大変嬉しく思います。この救助科では人命救助に関わる、技術、知識はもちろんのこと体力、精神的にも向上することができました。最初は所属も年齢も違う学生が集まりまとまりがないままスタートしましたが、日々の訓練を通じてお互いを高め合い、夜間の話し合いで考えが合わさり、週末の親睦会で絆が深まっていきました。最終的には全員が和衷協同して、修了することができました。



また、今期副総代を務めさせて頂き不安だらけでしたが総代2名を中心に分隊長の協力を仰ぎながらなんとか修了することができました。ここまでなに不自由なく訓練に打ち込めたのも第37期救助科に携わって頂いた全ての方々のおかげだと感じております。感謝の気持ちを忘れずに今後の消防人生に活かしていきたいと思います。

後輩へのメッセージ

1日1日を大切に余力は残すことなく全力で悔いなくやり切ってほしいと思います。妥協することは簡単ですが、本気で取り組んだ先にまた新しい自分に出会える、そのような場所だと感じています。21日間はあっという間です。仲間と共に最高の期間にしてください。最後に学校内の規律は厳守してください。救助科だから大丈夫と言ったことはございません。決められた規律は必ず守る。全学生に周知徹底してください。

第38期救助科学生に負けぬよう、我々も頑張っていきます。体調管理に留意しながら訓練に励んでください。皆様のご活躍、期待しています。

修了しての感想

第37期救助科では21日間の期間を過ごさせて頂き救助隊員に必要な知識、技術と共に、安全管理に対する意識を学びました。訓練中は教官、助教官から愛のある厳しいご指導を通じて救助隊員に必要な精神力、忍耐力も習得出来ました。



仲間達と共に本気になり全力で過ごした救助科での期間は、私の中で宝物となり絶対に忘れません。今後もずっと付き合っていける最高の仲間達と出会えました。伝統のある埼玉県消防学校救助科を60名全員で修了できたことを誇りに思います。

第37期救助科でご尽力を頂いた教官、助教官、快く送り出してくださった所属の方々、家族に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

後輩へのメッセージ

救助科では教官、助教官が全力で指導してくれます。最初は戸惑うことも多くあると思います。しかしそこには必ず立派な救助隊員になって欲しいという思いがあります。だから全力で訓練に臨み応えていってください。

全力で過ごす21日間は本当に一瞬で過ぎてしまいます。1日1日を大切に仲間達とたくさん話し合い、訓練をし、心を1つにしていってください。そうすれば必ず知識、技術以外にも得られるものが多くあります。頑張ってください。

修了しての感想

救助科では、一ヶ月とは思えないほどのたくさんの意識、知識、技術を学ばせて頂きました。その中でも意識の部分で学びが多かったと感じています。なによりも、副総代という役目を務めさせて頂いたことで人間としてもたくさんの学ぶ場を得られたと思います。人前に立ち発信していくこと、責任を持ち物事を進めていくこと、前に出るだけで無く、皆の意見を尊重し良い方向に皆が進めるよう導いていくことなど、苦労はありましたが自分の中では貴重な経験となりました。私は入校前に、リーダーシップをとり、積極的に人前で発言ができるようになる、という個人目標をたてました。まだまだ、目指しているところには足りないことが多いですが、この経験を経て、成長することが出来た点も多く有ったと思います。



本研修を終えて、感じたことは、救助科を修了させて頂いたことは、救助隊員としてのスタートラインであり、学ばせて頂いた、意識、知識、技術を元にどれだけ成長していけるかということです。そして今後は、後輩へ救助科で学んできたことを指導していくとともに、全力で職務に邁進していきたいと思います。私たち学生のため、伝統ある埼玉県救助科に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。

後輩へのメッセージ

今後入校する皆様は、入校できる喜びだけでなく、いろいろな不安があることだと思います。もちろん私も不安はありました。しかし、救助科は学びの場であり、失敗することで学ぶことができる場です。これは、入校中教官方から何度も言って頂いた言葉です。失敗を恐れて挑戦しなければ、成長はできません。教官方の熱いご指導に全力でついていけば、必ず成長できると思います。

そして救助科を作っていくのは、教官方でなく、学生一人一人です。本気で向き合った分、学ぶことも多いはずです。失敗を恐れず、最高の仲間たちと、最高の救助科を作り上げてください。